

昨年のミサ



クリスマスおめでとう!

のぞみ



カトリック
道後教会だより

街にはサンタさんやクリスマスツリー、ケーキやフライドチキンを食べ、プレゼントを交換し

、マスイブから聖夜のミサが荘厳に行われ、世界の平和と人々の心の安らぎを祈ります。二千年前、イエスはユダヤの

平和が来ますように

12月25日 キリストの誕生祝う

て楽しく過ごす。クリスマスはそんな日だと皆さんは思われていませんか。でも本当のクリスマスはイエス・キリストの誕生を祝う日ですね。道後教会をはじめ全世界の教会で12月24日のクリスマス、

町ベトレヘムの貧しい馬小屋で生まれました。飼う葉桶の干し草の上に寝かされた幼子を最初に訪れたのは付近にいた貧しい羊飼いたちでした。彼らは喜びにあふれ、神を賛美しました。成人したイエスは、人々に自分のことよりも周りの人を気遣い大切に思うことを教えました。

〈クリスマスミサご案内〉

◆ クリスマス・イブのミサ

12月24日 午後7時から

◆ キリスト降誕祭ミサ

12月25日 午前11時から

イブの夜は道後教会でミサ

クリスマスをお祝いする12月24日の聖夜、道後教会では上記のとおり(クリスマスミサのご案内)イブのミサを行います。キリストの聖誕を祝い、喜びの中で『しずけき』などの聖歌を歌い、祈り、司祭の話をお聞きます。毎年、『教会での本当の聖なるクリスマス』のミサを体験したい』という一般の人や近所の家族連れらが来ます。教会は皆さんと共に荘厳な雰囲気の中でクリスマスを祝えることを望んでいます。25日には午前11時からキリスト聖誕を祝うミサがあります。両日とも、どなたでも参加できますので、ご遠慮なくおいでください。



〈道後教会からのお知らせ〉

キリスト教について勉強してみませんか

◆キリスト教入門講座◆

・毎月 第2土曜日

・午後2時

・場所 道後教会

・講師 道後教会担当司祭

・及び 信徒

・洗礼を受けていない方が対象

・まずは、当教会へ(電話かFAX) お問い合わせください。
電話番号など下欄参照。

◆ミサ時間◆

・日曜日 午前11時

・金曜日 午前10時

・当面、毎月1回

(第1金曜日)

◆土曜談話室(悩み相談)◆

・第1・第3土曜日

・午前10時~12時

・カウンセラーには守秘義務があります。

大震災被災者支援続ける

道後教会では今年も11月17日（日）、隣の聖母幼稚園と共同で恒例のバザーを開きます。東日大震災の被災者支援をメインとし、宮城・石巻の味噌、醤油、白だし、合わせ酢などの産品も販売し被災地復興を支援します。また被災のお年寄りが余り布で器用に作ったフクロウの人形（ストラップ）も人



道後教会でバザー

11月17日（日）午前10時～午後1時

被災地では現在も仮設住宅で不慣れた生活を強いられる人も多く、道後教会ではまだまだ支援が必要だと考えています。地元ボランティア団体と手を組んで苦しんでいる人々を支える活動も始めました。

気を呼びそつです。

おさんマドレーヌも

バザーでは道後教会の伝統の味マドレーヌ、絶品の手づくりカレーの人気商品をはじめ毎回売切れのドミニカンクッキー、コーヒーコーナーもあります。また手づくり品もひっぱりだこで、余剰品販売にも人がつめかけます。カルメル会修道女の手作りスリッパも初出品です。バザーの開店は午前10時、閉店は前回より30分早く午後1時

宮城・福島の3ヶ所支援

現在、道後教会が東日本大震災の地元復興のため、バザーの収益などで支援しているのは次の2ヶ所。そのほか再建支援の商品の共同購入をしている。

- ① 宮城県の八木山教会のグループ「八木山オリープの会」
 - Ⅱ 宮城県巨理町の仮設住宅に住む被災者へ小物作りの指導や花見など季節のイベント企画、傾聴活動もしている。
- ② 福島県の白河教会の有志の会「みみずく」
 - Ⅱ 市内2ヶ所の仮設住宅の人々を支援。傾聴活動や夏祭りなど季節行事を開いている。

仮設住宅の人々に援助の手 イベント活動などに送金

道後教会から年2回送金。



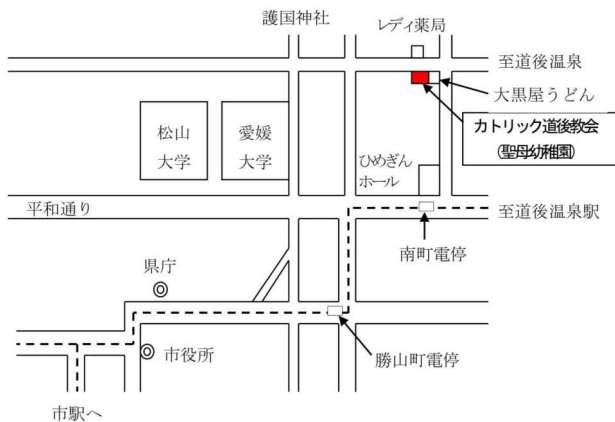
小物作りの後、“お茶っこ”で一服（巨理町）

会から2月に送金、7月に祭りにみかんジュースを送った。

③ 宮城県石巻市の山形屋商店（醤油醸造業）

- Ⅱ 津波で工場や在庫商品すべてが消失。再建支援のため年3回、醤油などの商品の共同購入をしている。

ですのでご注意ください。
当日は教会の聖堂も自由に見学できます。美しいステンドグラスを觀賞する家族連れらでにぎわいます。ぜひご入場ください。



サンタクロースとは

クリスマスの人気者サンタクロース。その名は「サンタ・ニコラウス」がなまったものだそう。聖ニコラオ（ニコラウス）は4世紀、今のトルコにあった教会の司教だった。



伝説では、2人の娘を持つ父親が金に困っているのを見て憐れに思った聖ニコラオが三つの金塊を家に投げ入れると、それが娘たちの靴や靴下に入ったといわれている。それが欧州の民話や米国の生活文化に取り入れられ、今のようになつたそう。